リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備(九州大学)

事業実施組織名称:

学術研究推進支援機構

学術研究推進支援機構(URA機構)

(H23年4月設置)

総長

全学的研究戦略立案支援

学術研究推進支援機構

機構長(理事・副学長(研究担当))

研究戦略会議

URA: 横糸の役割

事務支

援部門

<u>研究戦略企画部門</u>

シニアURA1名、URA4名(補助事業)+自主雇用URA

シニアURA: 新規学術研究拠点創設などプレアワード業務 URA: 基礎研究分野・融合研究のプレアワード業務 研究ニーズと研究シーズの情報収集・分析 システム改革推進事業のプレアワード業務

<u>産学官連携部門</u>

シニアURA1名、URA4名(補助事業)+自主雇用URA

シニアURA:全学的新規プロジェクトの企画立案調整

URA: ライフイノベーションに関するプレアワード業務 グリーンイノベーションに関するプレアワード業務 附置研究所

研究院

事務局

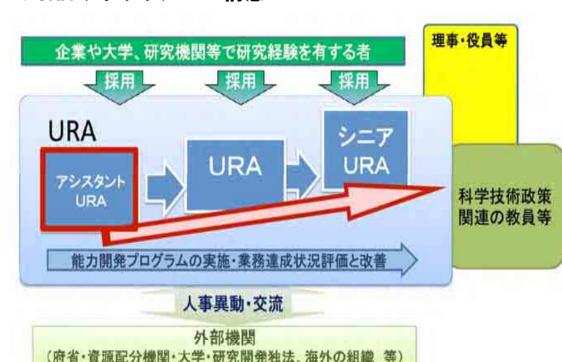
研究組織

◇基礎研究から産業界への橋渡しまでカバー ◇分野横断的な研究システム改革プログラムへの支援

幅広い研究分野と研究の段階に応じ研究者とURAの最適なチームを編成

能力開発・評価・キャリアパス等

◆URAのキャリアパス構想



- ◆ URAのジョブローテション及び本学独自のコースによる能力開発
 - ・広域なスキルを実地体験により獲得
 - ・多様な場で創造的成果を生み出す 能力の啓発
 - ·専門性の高いURAを育成
- ◆ URA機構内に<mark>評価委員会を</mark>設置
 - ・評価結果をURAにフィードバック⇒業務改善
 - ・評価結果をURAの配置・処遇に反映⇒インセンティブ意識の向上

- ◇アシスタントURAの設置
 - ⇒若手人材がURAを目指すことを支援
- ◇URA⇒シニアURA⇒教員、理事・役員等への プロモーション・キャリアアップのシステム構築
- ◇URAを第3の職として新たな雇用制度を創設し 安定的に雇用(H26年度まで)

目標:URA効果の好循環による 日本全体の研究活動の活性化

- ◆URAの雇用と育成を推進⇒URAを定着
- ◆URAのチームとして支援活動
 - ⇒ニーズに応じて最適な支援を実施
- ◆研究者の事務的負担軽減⇒研究活動の活性化
- ◆プレアワードの強化⇒大型プロジェクトの獲得